

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	清水 光弘	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(臨床心理学)	
学位授与番号	乙第20号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第4項該当	
論文題目	子どもの社会性発達における母子相互作用の役割に関する研究—共同的関わりと共制御の観点にもとづく分析—	
審査委員	教授 金光 義弘	教授 保野 孝弘
	教授 永田 博	

### 博士論文内容の要旨

本論文は主に研究1と研究2の実証的研究と、その知見に基づく理論的及び臨床的議論とから構成されている。研究1では、母子の相互作用をマイクロ分析によって行動的随伴性を精査し、共同的関わりは18か月時に支持的状態から協応的状态に発達することを明らかにした。研究2では、子どもの遊び場面における母子の位置取りと相互応答性、および母親の関わり方との関連を検討し、特に縦並びの場合、母親の関わり方は退避的か侵入的になること、そして、母子間の相互応答性は低下することを明らかにした。

これらの実証的研究に基づき、相互作用の維持のために、子どもの変化に即応して母親の行動は変化し、一貫して支持的であることが明らかになった。これは、自己制御の発達の基盤となる共制御と同一の過程であり、子どもの社会性発達を、乳幼児期の母子相互作用の発達の帰結と結論づけた。最後に、不調和な状態にある母子関係への臨床心理学的介入として、本研究から得られた知見が有効に活用できることが議論された。

### 博士論文審査結果の要旨

平成25年11月に行われた予備審査会において、論文提出者と予備審査員3名が論文内容に関する議論を交わし、その結果に基づいて題目、論文構成、及び内容表現の一部修正がなされ、最終的な学位論文が提出された。

本審査委員会は提出された学位論文について、慎重に審査を行った。その結果、子どもの社会性発達における臨床的問題を解明するために、特に乳幼児期における母子相互作用のあり方に着目し、独自の客観的指標を導入することによって詳細な観察と分析を行い、新しい知見を得た。特に乳幼児期における母子の共同的関わりが発達し、その後の母子関係や子どもの社会性の発達に影響を与えることを、実証的データによって明らかにした点が高く評価された。さらに得られた知見に基づき、社会臨床的に問題のある母子に対する支援目標を定め、発達心理学的な評価及び支援方法を提示した点に本論文の臨床心理学的意義が認められた。